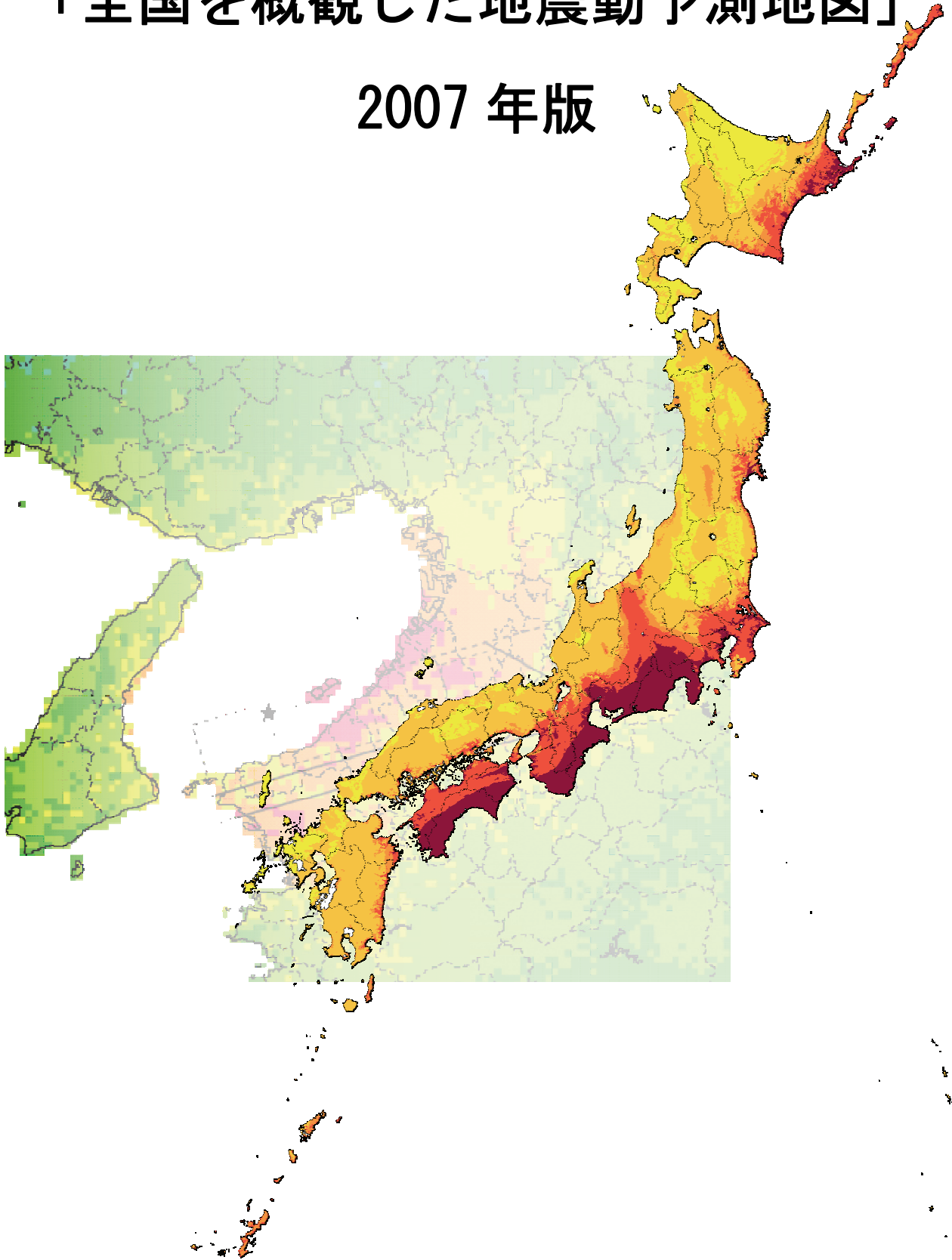


「全国を概観した地震動予測地図」

2007 年版



平成 19 年（2007 年）

地震調査研究推進本部 地震調査委員会

発行にあたって

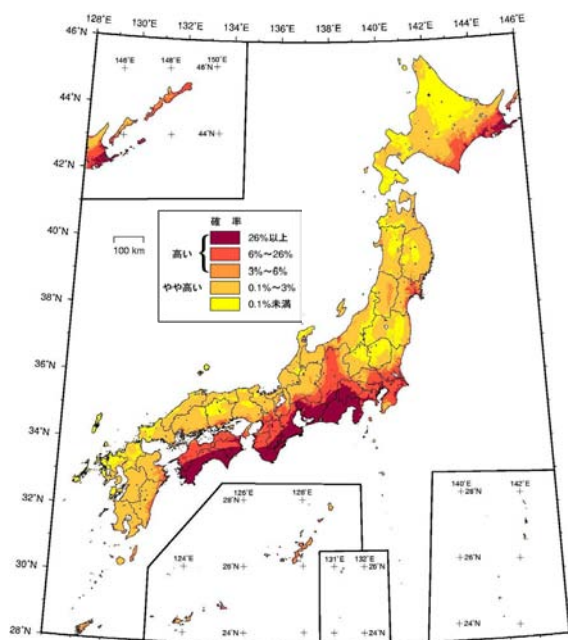
地震調査研究推進本部地震調査委員会は、平成 17 年 3 月に「全国を概観した地震動予測地図」報告書を公表し、平成 18 年 9 月にこれを 2006 年版として改訂しました。今回、「全国を概観した地震動予測地図」のうちの「確率論的地震動予測地図」について、地震発生確率値の平成 19 年 1 月 1 日時点での更新結果や長期評価の改訂結果等を反映し、見直しを行った結果を 2007 年版として改訂しました。

なお、初版と 2006 年版は専門的な内容を中心に報告書として記載しておりましたが、この 2007 年版では、「全国を概観した地震動予測地図」の概要のみを記載しました。また、2006 年版との変更点についても 3 章に記載しました。地震動予測地図の計算手法などの専門的な内容や報告書の活用方法や F A Q については、付属の CD-ROM に 2006 年版報告書を PDF 形式として収録しましたので、併せてご覧下さい。付属の CD-ROM の詳細な収録内容につきましては、巻末に記載しております。また、特定の場所を拡大した地震動予測地図などをご覧になりたい方は「地震ハザードステーション (J-SHIS)」をご覧ください (<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>)。

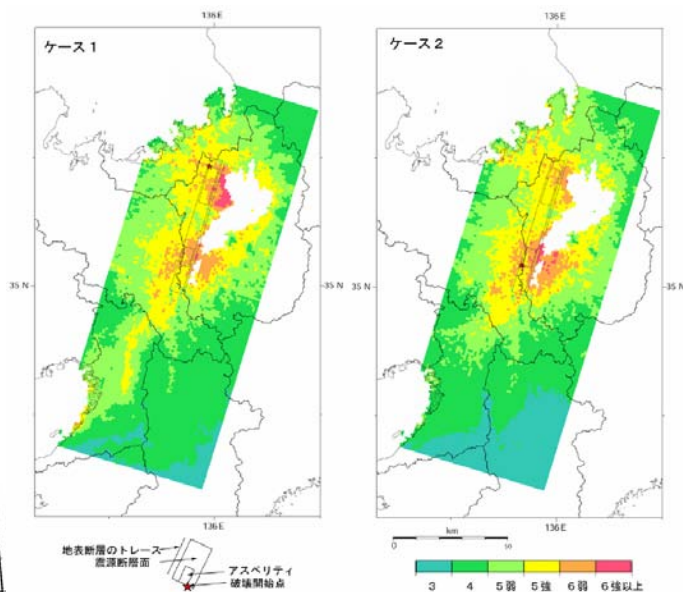
今回更新された「確率論的地震動予測地図」も含め、「全国を概観した地震動予測地図」が、国民の防災意識の向上や効果的な地震防災対策を検討する上での基礎資料として活用されることを期待しております。

表紙の説明：二種類の地震動予測地図

地震動予測地図とは、地震が発生した際に、対象としている地域各地を襲うであろう地震動の強さを予測した地図のことです。地震調査委員会の作成している地震動予測地図は、「確率論的地震動予測地図」と「震源断層を特定した地震動予測地図」という、観点の異なる 2 種類の地図で構成されています。



確率論的地震動予測地図
(例：今後 30 年以内に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図)



震源断層を特定した地震動予測地図
(例：琵琶湖西岸断層帯の地震を想定した強震動評価)

「全国を概観した地震動予測地図」2007年版

目 次

1.	確率論的地震動予測地図	
	(確率論的地震動予測地図の説明と各地域の特徴について説明しています。)	
1. 1	概要	1
1. 2	地域別の特徴	5
1. 3	地震の発生確率などの評価	19
2.	震源断層を特定した地震動予測地図	
	(震源断層を特定した地震動予測地図の説明とこれまでに実施した強震動評価結果の概要を説明しています。)	
2. 1	概要	22
2. 2	レシピ	23
2. 3	これまでに実施した強震動評価	23
3.	2007年版と2006年版との違いについて	27
	(確率論的地震動予測地図2007年版と2006年版との違いについて説明しています。)	

付録

1.	用語集	30
2.	地震発生確率値などの評価結果一覧表	34
3.	2006年版からの計算手法などの変更点	47
4.	地震動予測地図データの公開と利用方法	51
	CD-ROMの使い方・収録内容	53

付属のCD-ROMには以下の内容を収録しています。詳細な収録内容については巻末をご覧ください。

- ・ 「全国を概観した地震動予測地図」2007年版(本書、PDF形式)
- ・ 「今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率分布図」などの高解像度の図(PDF形式)
- ・ 「全国を概観した地震動予測地図」報告書2006年版(PDF形式)

本書に記載した地図の海岸線および県境は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(空間データ基盤)を複製したものである。(承認番号 平18総複、第1085号)